

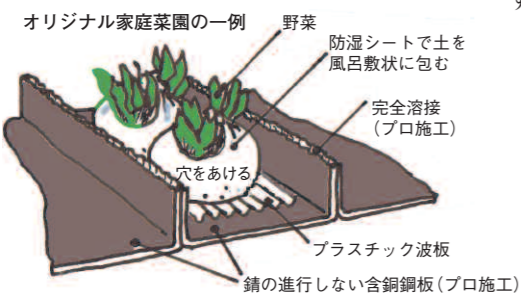
Lesson 一人住まいのデザイン

Try

屋上に家庭菜園をつくる

屋上に家庭菜園をつくる場合、設計・施工上、考慮しなければいけないことがたくさんあります。建物の構造が屋上の荷重や地震力に耐えられるか、植物の根に防水がやられないようになっているか、水持ちをよくしながら、根腐れをおこさない給水や排水はどうしたらいいか、どんな土を入れるか、屋上の土や植物が風で飛ばされないようにするにはどうしたらいいかなど。

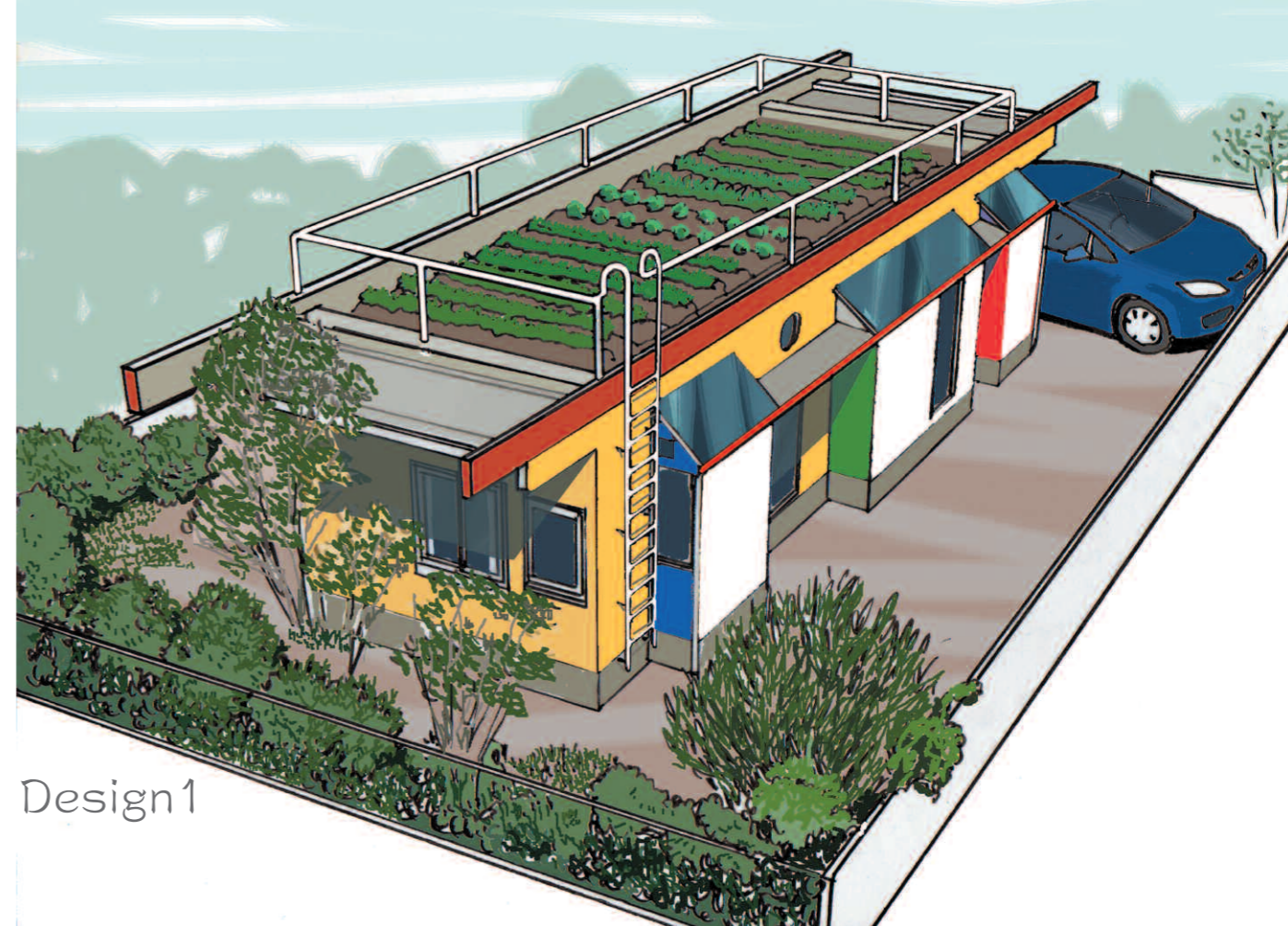
これらの対策がとられた屋上緑化のシステムは、結構高額なので手が出せないという方も多いのではないのでしょうか。構造上の耐力や防水については、専門家に依頼する必要がありますが、システムとして組み込まれている軽量の土壌とか耐根、防根シートなどの部材は、インターネットやホームセンターなどで手に入ります。研究しながらいろいろ工夫して、オリジナルの家庭菜園をつくってみるとよいでしょう。



私が提案する一人暮らしの住まいは、最初、最小限のコアになる部分だけを建て、生活の状況の変化に応じて自分で増築していくセルフビルドの家です。コアは南北に長い平屋の住まい。東側にキッチンと浴室・洗面室・トイレの水まわりを配置し、西側にリビング・ダイニングや書斎・寝室の居室空間をプランニングしました。増築は、コアの両サイドに部屋を設け広がっていきます。東北に増築した収納スペースには、玄関ホールからトイレの前を通っていく動線と、洗面室から入る2つの動線があります。東南に増築した趣味室は、西側を広げた大きなLDKとつなが

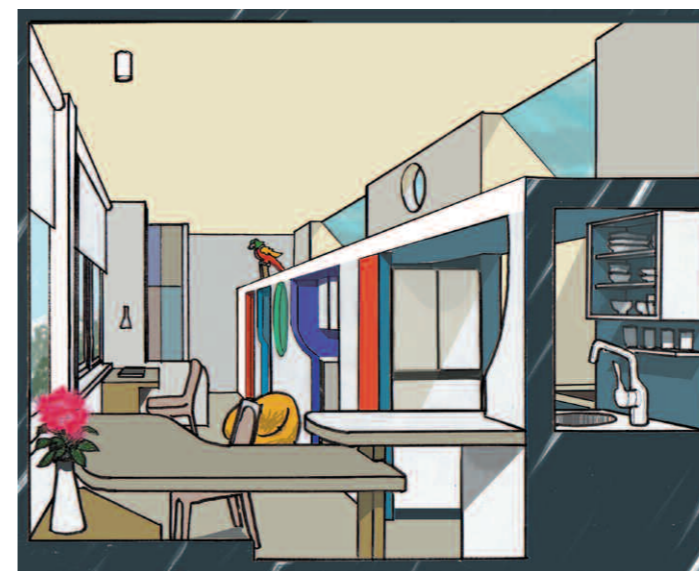
っています。西北には玄関土間から直接入ることができるホームオフィスを増築しました。プランでは、リビングとオープンになっていますが、仕切ってもいいと思います。簡易な仕切りにしておけば、使い方の自由度が増すことでしょう。

コア部分には、家庭菜園を屋上緑化として組み込むことをテーマとしています。屋上で家庭菜園を楽しむ、いわゆる屋上緑化は、自分で丹精し育てた安全な野菜を、おいしく食べられるだけでなく、都市部でのヒートアイランド化防止に役立つという意義もあるので、やってみる価値があると思います。



Design1

Design2



一人暮らしの家は、誰はばかりことなく、自分流を表現することができます。住まいの魅力というものは、誰が見ても好ましいと思うバランスのとれた調和からも生まれますが、他方で、少しぐらい調和がずれていても、個性が表現されていることからも生まれます。日本人のインテリアセンスは、近年かなりレベルが高くなったとは思いますが、自分流の個性の表現となるとまだ物足りない感じがあります。一人暮らしをする一人一人が、自分の住まいづくりでのびのびと自分を表現してもらいたいと思います。

ちょっとしたデザインText

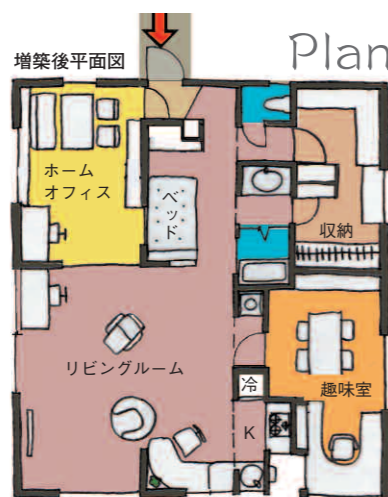
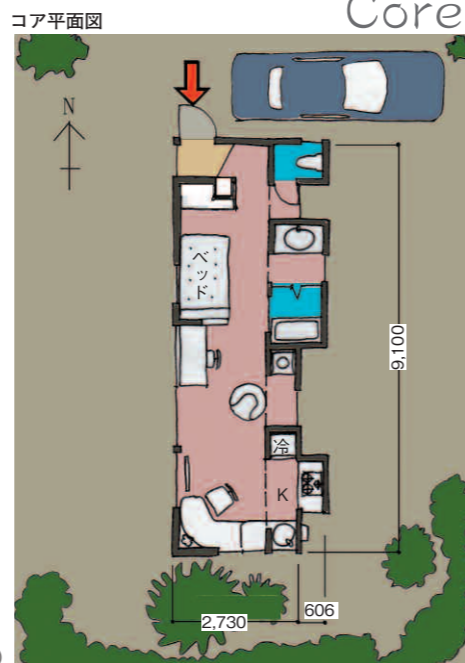
住まいの建築家 下島恒雄

セルフビルドの 一人住まい

現在は一人住まいと二人住まいの世帯が、全世帯の50%を超える時代です。全世帯に対する核家族世帯の比率は、戦前と著しく変わったことはいらないようですが、一人または二人暮らしが、けっして特別なことではなくなったところに、今日的な特徴があります。

もはや、人によっては、一人暮らしを人生の過渡的な段階や仮住まい的なものではなく、自分らしいライフスタイルとして選択しているようです。そうすると、一人暮らしのための住まいは、ずーっと安定して住み続けられる終の棲家として、住まい手らしい誇りあるものに仕立て上げられなければなりません。

Core



建築面積 / 74.53㎡ (22.55坪)

建築面積 / 27.78㎡ (8.42坪)

一人暮らしのための
住まいは、
自分らしい
誇りあるものに仕立てる